

らいいんね」と

（母は知っていたのです。あの時分、日豊線の線路があつた浅山ソの東側を南北に突き抜けてゐることを）

母のとつさの感で、二人は山を下り平地の農道トに出ることが出来た。その時は気がぬける程、ホツとしたことを今も忘れてない。いつも先生が書かれた、なつかしい花や景色の絵から、あの頃のあの時の感情が引き出されて、感激してしまふ私です